
窓の外には

北川瑞稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

窓の外には

【Nコード】

N4178N

【作者名】

北川瑞稀

【あらすじ】

「子ども扱いしないで。ちゃんと知ってる。」
少女の声が届くことはもう、ない。

あなたは、今居る場所からなにが見えますか？

私は、白い壁。もう長いこと、病院の消毒液の匂いが染み込んだこの白い壁しか、見ていない。…見れないの。ここから出ることが出来ないから。

いやだ、とは別に思っていない。これはこれで好きだし。

だけどあの人に出逢ってしまったから、あの人がこの壁の向こうのことをとても嬉しそうに話すから、そんなあの人を好きになってしまったから、だから。

窓の外に出て、あの人と過ごしたい。そう思うようになったんだ。初めて、心から、病気を治したいって思ったの。

だけど…。

「先生…」

「ん？」

「私、治りますよね？」

「…ああ、頑張れば治るよ」

先生は、優しい。だから、あんな嘘をついてくれる。

（私は、ちゃんと、知ってるよ）

この病気が治らないってこと。ちゃんと、知ってる。知ってるよ。だから、子供扱いしないで。ちゃんと、教えて。

「先生……」

「ん？」

「私、治りますよね？」

「……………」

何度も何度も繰り返す。同じ質問を、何度も何度も。

その答えを教えてくれる時にはもう、私の耳には何も届かないだろうということ、私も先生も知っている。

「…君は」

「何ですか？」

「今、何を考えているんだ…？」

先生の真っ直ぐな瞳。そういうところに、惹かれてしまう。

「…さあ、何でしょう」

ふつと微笑んで誤魔化す。何を考えているのか、なんて自分でもよくわからない。

先生は、それ以上は何も訊かずに、私の頬へ手を伸ばした。

先生の手が温かくて、心地よくて、私は眠りについた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4178n/>

窓の外には

2010年10月9日00時03分発行